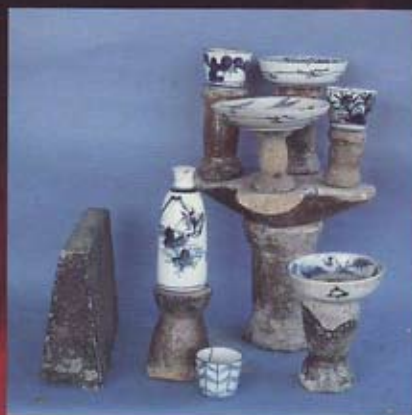


陶芸の里 みやぎきの文化財

第二集



宮崎町教育委員会

発刊にあたって

草木に根があるように、人間にも根があるように思われます。その根の一つが、古代から代々引き継がれた有形無形の文化財とします。

根を大事にしない草木は枯れます。根を大事にするために、根を理解するために、根を未来に引き継ぐために、この第二集が刊行されました。

御愛読願います。

編集に精魂を傾けられた文化財保護委員の方々に心から感謝申し上げます。

平成5年3月

宮崎町教育委員会

教育長 伊藤 壯

発刊にあたって

町民のみなさんからのご協力をいただき、ここに「みやぎきの文化財」第二集を発刊することができました。

私たちの身のまわりには、数多くの文化遺産が残されており、ここ数年来、文化財保護委員会としても、標柱の設置や歴史にまつわる記念行事、そして小史の発刊に努めてまいりましたが、今後も町民のみなさんのご参加をいただきながら保存活動に取り組んでまいりたいと存じますので、尚一層のご理解とご支援をたまわりますようお願い致します。

平成5年3月

宮崎町文化財保護委員会

委員長 板垣 剛 夫

目 次

天然記念物	ニホンカモシカ	1
名勝・旧跡	ミズバショウ	田代 … 2
	田代番所跡	田代 … 3
城 館	孫沢館	孫沢 … 4
	谷地森館	谷地森 … 5
	琵琶館	桧葉野 … 6
	牧野館	北川内 … 7
藩政時代の邑主	宮崎村と石母田氏(1)~(2)	宮崎 … 8
	宮崎村と古内氏(1)~(2)	宮崎 … 10
	孫沢村と木幡氏(1)~(2)	孫沢 … 12
神 社	田川八幡神社	米泉 … 14
	白山権現社	君ヶ袋 … 15
	妙見社	沼ヶ袋 … 16
	諏訪神社	柳沢 … 17
	大鳥山日吉社	麓 … 18
	愛宕神社	切込 … 19
観 音 堂	落合大乘院観音堂	下小路 … 20
	中山観音堂	西川北 … 21
伝 統 芸 能	町内の獅子舞	麓 … 22
神 事	柳沢の焼八幡	柳沢 … 23
	小泉の水祝儀	小泉 … 24

遺 跡	東山遺跡(1)～(3)	鳥嶋	25
	旭壇遺跡	旭	28
	物置遺跡	西川北	29
	小泉古墳群	小泉	30
	早風遺跡	鳥屋ヶ崎	31
	上の原遺跡	孫沢	32
古 文 書	寛永検地帳		33
	明治5年戸籍簿作製の基本絵図		34
古 墓	浜田伊豆景隆君之墓	桧葉野	35
	源真の墓	西原	36
石 塔	湯殿山の碑	上町・田川	37
	馬頭観世音(馬權神)の碑		38
工 芸	切込焼(1)～(2)		39
絵 画	絵馬		41
	宮崎小唄		42

天然記念物 ニホンカモシカ



偶蹄目・ウシ科の哺乳類で、日本特産種の動物である。外見は、まったくヤギと同じで、普通1,500~2,000mの亜高山帯に分布しているが、本町では、宝森・木菟山・砥沢をはじめ、ほとんどの山間部に生息している。最近は麓の畑などにも姿をあらわしている。

カモシカのことを、地元ではアオシシと呼び、狩猟の対象とされ、一時、数が減少したが、昭和30年(1955)天然記念物に指定され、保護されるようになってからは次第に数がふえてきている。



ミズバショウは、サトイモ科の大形多年草で、本州中部以北山地の湿原にはえ、春の雪どけと同時に白い葉を出す、その出揃った様子はすばらしい。特に田代の湿原に群生している。

ミズバショウは、周辺の自然環境の変化に左右されやすいので、開発等の場合は、保全に十分意を用い、ふるさとの花として、今の美しい姿で、いつまでも咲き続けていくことを願いたい。



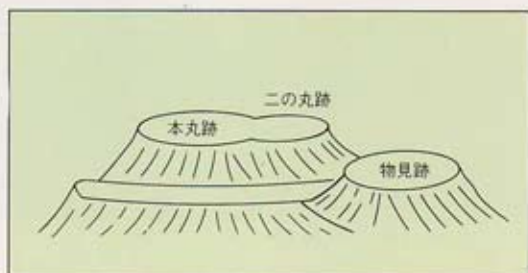
御堀^{おほり}田代峠は、他領最上への出抜で、寒風沢番所の持前であったが、御堀強化のため、寛文9年(1669)最上との堀より、2～3丁(約200～300m)手前の元田代に番所が設けられ、足軽10人が置かれた。

天和3年(1682)密馬移出を見逃し、足軽は他に追放された。足軽に代り、地元の山守たちが、その職をついだと古記録にある。

貞享2年(1685)雪が深く、万事不都合なので、今の田代(あけびだら)に番所が移され、新召出の足軽6人の住居も共に移転した。

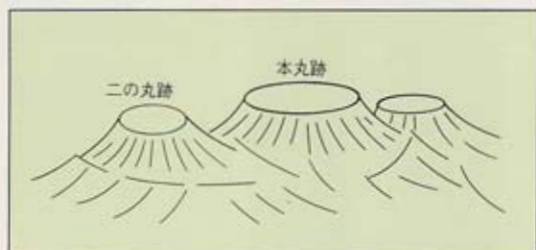


資料：安永五年「田代御足軽書出」



現木幡氏の屋敷で、同家の御霊屋のあるところである。

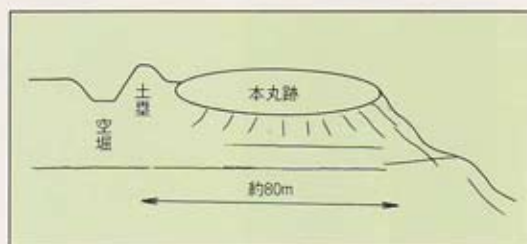
大崎氏時代後半、笠原九郎左衛門の居館とあり、南北20間（約40m）東西22間（約50m）と風土記にある。東と南はよく開け、北と西に深い堀跡が残っている。館主九郎左衛門は天正19年、宮崎城合戦の折、宮崎城に立て籠り討死したと伝えられている。



大崎氏時代、柳沢文二郎こと谷地森主膳の居館である。（永禄10年の知行書による。第一集参照）風土記には、南北30間（約55m）東西12間（約22m）とある。主膳は宮崎城合戦後、羽州山形に逃れ、末裔は伊達氏に仕えた。



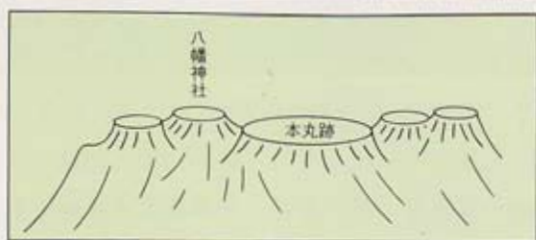
資料：安永風土記・谷地森氏知行書



現桧葉野高橋新喜氏宅地。仙台領古城書上によると、^{南北} 縦14間（26m）、横35間（65m）、城主大崎家臣、柳沢備前守とあり「封内名蹟誌」には、郷人桧葉野殿、八木沢の居館とある。



資料：仙台領古城書上、封内名蹟誌



北川内牧野地内の小高い山の頂上にある。安永風土記に南北30間（約55m）東西30間（約55m）築城年、館主は不明とある。柳沢大館、太鼓森、高保呂という地名が続いていることから、大館の西要害地と考えられる。なお、館の内にある牧野八幡神社に、掛仏二体が安置されている。



資料：安永風土記

いしもだ 宮崎村と石母田氏(1)

石母田氏屋敷絵図 (県図書館蔵)



石母田氏六代、永頼、承応元年（1652）宮崎村を賜わり、栗原郡岩ヶ崎から移り、麓の古城に6年在館、後新館を下小路（現役場）に築き万治元年（1658）ここに移る。

永頼が宮崎村に移った時は、麓屋敷（元宮崎）が手ぜまなため、野谷地が大部分を占めていた現在地に町、城内の区割りをし、移り住んだ。

石母田氏は九代興頼が、宝暦7年（1757）高清水に転封されるまで、約100年宮崎の邑主をつとめた。

屋敷の周囲は完全な環濠をなし、その内側に土塁があり、東西100間（約1,800m）南北90間（約1,600m）堂々たる屋敷であった。現在、屋敷西側の環濠が一部残っている。

宮崎開拓の祖 石母田長門永頼(2)



台ノ原から桧葉野をのぞむ

石母田氏六代永頼が宮崎に移封された時、野谷地が約 300 ヘクタールを占めていた。永頼はこの野谷地の開墾を強力に進め、一里塚から、桧葉野にかけて、約 230 ヘクタールの新田開発をなしとげた。まさに、宮崎開発の祖である。

新田開発には、大きな苦勞と犠牲があった。鳴瀬川から標高60mの台地、台ノ原を越しての灌漑用水路蟬暖の掘削である。

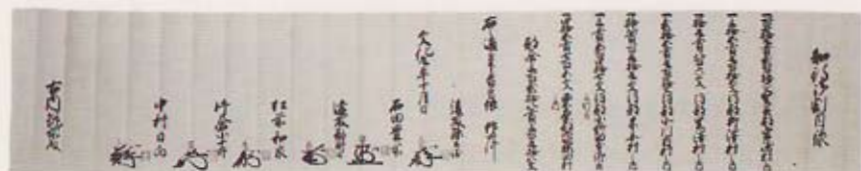
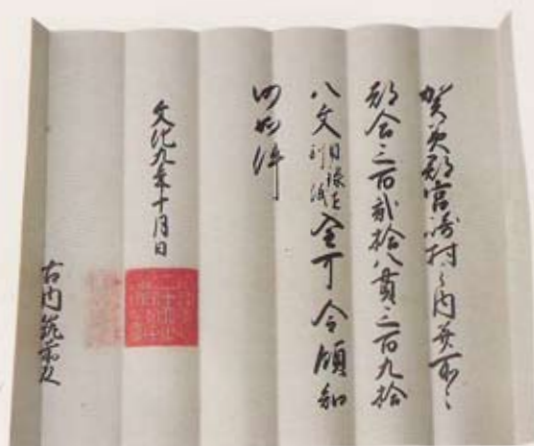
10年の歳月と、責任者海老田新蔵人、肝入桧野二郎右衛門、検断佐藤与惣平衛をはじめ、住民の熱烈な努力によって見事完成した。



海老田新蔵人の墓
洞雲寺境内

宮崎村と古内氏(1)

古内氏は、宝暦7年(1757)石母田氏が高清水に移封されたとき、五代義清が小野田から宮崎に知行替となり、明治2年(1869)の邑地、人民の奉還まで120年間の邑主である。古内氏は、石高、約3,300石、仙台藩の重臣で永代着座という格式をもっていた。中でも二代志摩は奉行職をつとめ、寛文事件(伊達騒動)の沈着冷静な事後処理により、伊達家62万石を泰山の安きにおいた功績はあまりにも有名な話しである。



知行御割目録 (文化9年)

宮崎村と古内氏(2)



御屋敷跡（現宮崎町役場）

古内氏は、宮崎に知行替と同時に旧石母田氏屋敷に入る。

代々の邑主は、産馬事業に力を入れ馬市を開く。また、堰の開削、新田開発に力を入れる。

さらに寺子屋を開くなど村の発展に尽くした。

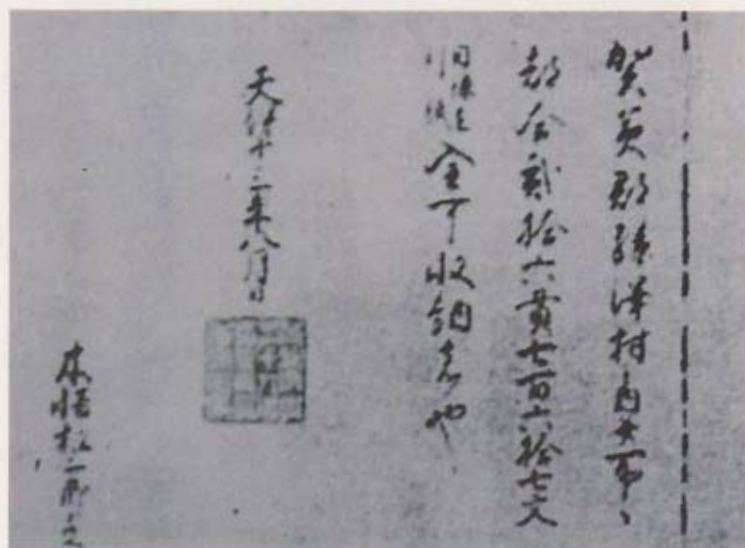
現当主は、十三代治夫氏で、町内で薬局を経営している。



志摩使用の脇差 銘号 義 広

木幡氏初代筑前定清、慶長5年(1600)以来、孫沢村を開拓、孫沢在郷屋敷(孫沢館)に入り十三代文弥直清、明治2年(1869)の邑地、人民の奉還まで実に270年の邑主である。現当主は、十七代哲彦氏である。

知行御割目録



初代、筑前定清は16歳で政宗公に従い、上杉景勝と松川役で戦い、敵将の首を挙げ、分捕った旆旗ひらたけに首を包み、政宗公の実検に供した。後、藩公の命により木幡家の軍旗として、常に先陣に立ち、数々の偉功をあげた。その血染めの軍旗が、現在も木幡家に所蔵されている。

※旆旗とは、大将が立てる長い旗をいう。

孫沢村と木幡氏(2)

孫 沢

木幡家は、代々伊達家中小姓役として仕え、戦時には数々の偉功をあげた。特に砲術に優れていた。初代筑前定清は大坂の陣で、伊達軍陣鉄砲百挺組隊長、十代東八郎辰清、砲術を好み火薬を製す。十二代松三郎延清、蝦夷地警備大砲方。十三代文弥直清、戊辰の役大砲方をつとめた。



木幡家は馬乗（藩主の公用使者）
としても、重責を果たした。



木幡松三郎延清が使った名刺

田川八幡神社

米 泉



葛西^{くさい}氏の家臣、米泉城主四代笠原権守重富が城の守り神として、石清水八幡より分霊し、元八幡と呼ぶ所に安置して田川八幡と称した。

安永5年（1776）現在地に移転した。

御本尊は阿弥陀如来の掛仏である。なお、本堂の天井に花鳥絵が描かれている。現宮司は、舟形師である。



資料：安永風土記・米泉高橋家の系譜



勧請については不明。白山権現社ともいう。
祭神は、白山妙理大権現(農耕の神)で、御本尊は木仏である。

祭日 旧4月19日、9月19日。

天保12年(1841)修造とある。

現宮司は、舟形師である。



みょうけんしゃ ほくしんしゃ
妙見社(別名北辰社)

沼ヶ袋



勧請については不明。

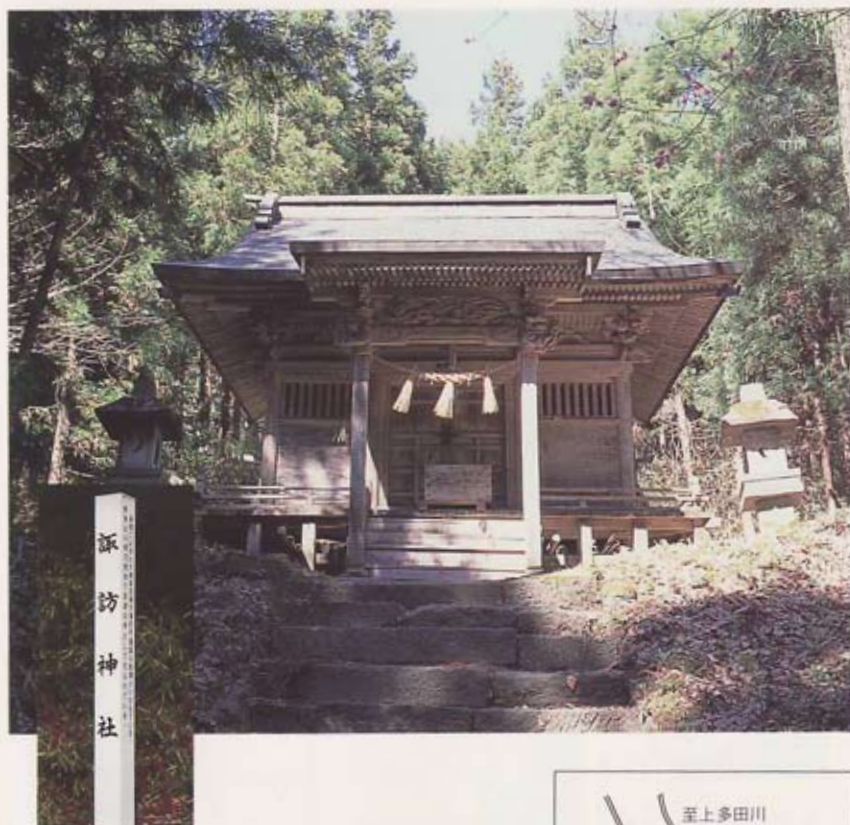
祭神 北辰妙見尊星王大菩薩。

板碑 (安永5年 1776) には、宇賀神将
に变じ、一切衆生の寿福神となると
ある。

祭日 旧4月9日、9月9日



資料：安永風土記



縁起によると、大崎家臣柳沢備前守隆綱の勧請といわれているが、風土記には不明とある。

祭神は、八坂刀売命^{やまかきりのおんりかみ}、建女名方命^{たけのむねのなかつかみ}を祀り、五穀豊穡、安産の神として知られている。

祭日 旧 3月27日、7月27日。

大正7年火災により翌年社殿を再建する。

現宮司は宮崎萬喜子師である。



資料：安永風土記、縁起録

だいとりさん ひ よししゃ
大鳥山日吉社(山王様)

麓



大鳥山日吉社(山王様)

オオヤマクイノカミを主神に、オオアナムチノカミを合祀している。比叡山の地主神といわれ、天台宗と深い関係にあり、天台宗の寺院のあるところには、日吉神社が祀られている。



馬の神様として、郡内はもとより、県下から、馬主の参拝が多かった。近年産馬の数が少なくなり、参拝者も一部の人々にとどまっている。

祭日は9月9日、現宮司は宮崎萬喜子師である。

資料：安永風土記



勧請については不明。

祭神は、勝軍地藏菩薩、雷槌かみづねの神（火の神）を祀る。

政宗公時代、当村に金山が繁昌した時、お社を建て替えたと風土記にある。現宮司は、宮崎萬喜子氏である。

資料：安永風土記



勧請については不明、現観音堂は、宝暦7年（1757）、石母田家金剛院跡に移ると風土記にある。別当は羽黒派大乘坊とあるが、神仏分離により廃された。

現在は堂宇はなくなったが、子安観音像が祀られている。祭日は9月17日、近郷近在から参拝者が多い。庄司茂氏の屋敷内に祀ってある。



加美郡三十三観音 一番

「もろもろのみのりの声はかわれども、

おなじ仏の道は落合」

資料：安永風土記



勧請については不明、御本尊は聖観音である。風土記には、別当常宝院とある。

祭日は、9月17日である。

現宮司は、宮崎萬喜子師である。

加美郡三十三観音 三番

「中山に わけてあゆみをはこぶなら
尚も仏の道はひらけん」



町内の獅子舞

熊野神社の獅子舞



獅子舞は悪魔払いといわれており、神輿渡御の際、道をふさいでいる一切の悪魔を払う意味から、真先に舞われる。

熊野神社の獅子舞は、神社勧請の時から、伝承されたと伝えられているので、六百数十年の伝統がある。

舞は、8つの舞の連続、1、大幕（獅子が山から出てくる） 2、^{駆け}出 3、山落し（勇猛な舞） 4、怒り 5、^は歯喰い 6、骨返り（休息中、背を伸す） 7、^{蝶々}取り 8、獅子愛し（山の神が出て来て、獅子と遊び、捕える終りの舞）からなりたっている。

獅子舞は熊野神社をはじめ、賀美石神社、鳥屋ヶ崎八幡神社、田川八幡神社にも伝えられている。



柳沢に古くから伝わる、火難除けと豊作を祈る行事である。

毎年、正月14日若者講員が、部落の子供達と一緒に、八幡社の境内に御小屋をたて、藁燈籠わらとうろうを12個つくり、夜間に入り藁燈籠に点火し、作況をうらなう。各戸では餅をつき、重ね餅を八幡社に供える。

翌15日午前1時ごろ、宿前で前祝の酒を汲みかわし、午前3時ごろ、若者講員が八幡社に裸参りをする。その後、各戸を巡回し、再び八幡社に参り、御小屋焼をして解散する。





小泉の「水祝儀」の起源は不明であるが長い伝統をもっている。村の道祖神に火難除け、家内安全、子宝に恵まれるよう祈願する行事である。部落内に新夫婦が誕生すると、旧2月2日に新夫婦と各戸1人が会場に集合し、道祖神に祈り、神酒を汲みかわし、部落の人々への仲間入りのために、新夫婦は儀式を受ける。



全員「ひたい」に「水」の字を墨で書き、各戸をめぐり、火伏せの水をかけて、祝盃を受ける。

古代賀美郡^{ぐんが}衙跡 東山遺跡(1)

鳥 嶋



(東山遺跡 1/ 500 全体模型)

宮崎町鳥嶋字東山から、鳥屋ヶ崎八幡裏にかけての標高80mの台地に、築地状の土手、礎石、瓦、土師器、須恵器等が散布していたことから古代賀美郡衙跡と推定した。

郡衙であれば、国府多賀城と深い関連をもつ国郡制の実施を意味するものであり、この遺跡の性格を解明する必要性が生じ、

昭和61年多賀城跡調査研究所によって発掘調査が実施された。発掘にあたり、地元、鳥嶋の人々、また地権者の人々の協力を得て、平成4年まで、7年間にわたり発掘調査を実施した結果、古代賀美郡衙跡であることが確認された。





銅製巡方 (帯金具)



軒平瓦



円面鏡



墨書土器



磚 (レンガ)



炭化米



発掘調査の成果と今後の課題

今から約1300年前、陸奥国府多賀城の下で、古代賀美郡を治めた役所「郡衙」であることが確認された。東西300m、南北250m、の外周が築地塀で囲まれ、内部は、大溝で東西に二分されている。西側は正倉院（米倉）、東側は郡庁院（政務、儀式を行なう）、北側には実務的な仕事をした建物などが確認された。遺跡は保存状態がよかったため、郡衙の内容が良くわかることでは、全国でも屈指の遺跡である。蝦夷と接する地域としての郡衙の様相、また、東北の古代史を解明する上で極めて重要な遺跡である。今後、残された課題である南門等の調査と同時に、史跡整備を行い、国指定を受け末長く保存、活用していかなければならない。

資料：多賀城関連遺跡調査報告書 東山遺跡1～7・宮崎町史

旭壇遺跡

旭



土偶

旭小学校の裏一帯の遺跡で、縄文時代の中期から晩期にかけての遺跡である。田川の兩岸丘陵には、縄文時代の遺物包含地が多いが、中でもここは出土遺物が多い。主なものは、大木・大洞式土器、土偶、丹塗器などが出土している。





石皿

西川北の丘陵地、物置地内で、縄文時代の後期から、晩期にかけての遺跡である。主な出土品は、南境・大洞式土器、石器、土偶などである。また、この遺跡から、加曾利式（千葉県）の様式土器が出土しているのも不思議である。





小泉の北要害圏（現杉林）に、三基の方墳がある。いずれも、墳径約10mで、古墳時代後期（600年代）のものと思われる。





本町は昭和51年に、農村総合整備モデル事業の指定をうけ、同地内に農村環境改善センター及びグラウンドを建設することになり、昭和54年建設予定地の発掘調査を実施した。

調査の結果、同遺跡は、奈良・平安時代の^{たてあな}竪穴住居跡及び^{はらこ}堀立柱建物跡が確認され、大集落であったことが判明した。これにともない、遺構保存のため、センターの建設位置変更、グラウンド造成工法を変更して遺跡の現状保存につとめた。

資料：昭和55年早風遺跡発掘調査報告書



孫沢の丘陵上ノ原地
内で、縄文早期から弥
生・奈良、平安に至る

複合遺跡である。主な出土品は、素山・大木
・大洞式土器、石器、土偶、装身具、土師器、
須恵器などである。粘土ひも巻上技法による
豪華な土器等の遺物も多く、大崎地方でも第
一級の遺跡である。



江戸幕府は、大閤検地を修正し、幕府・諸藩の領内で検地を行い、租税体系と農村の支配体制を確立した。

仙台藩では、検地帳に一反歩を300歩、一間四方を一步とし、一間の長さを、6尺3寸として測量し、地名・等級・生産高・屋敷と百姓を村ごとに帳簿に記載した。

検地帳に記載された百姓は、本百姓として、安永風土記に記録された。



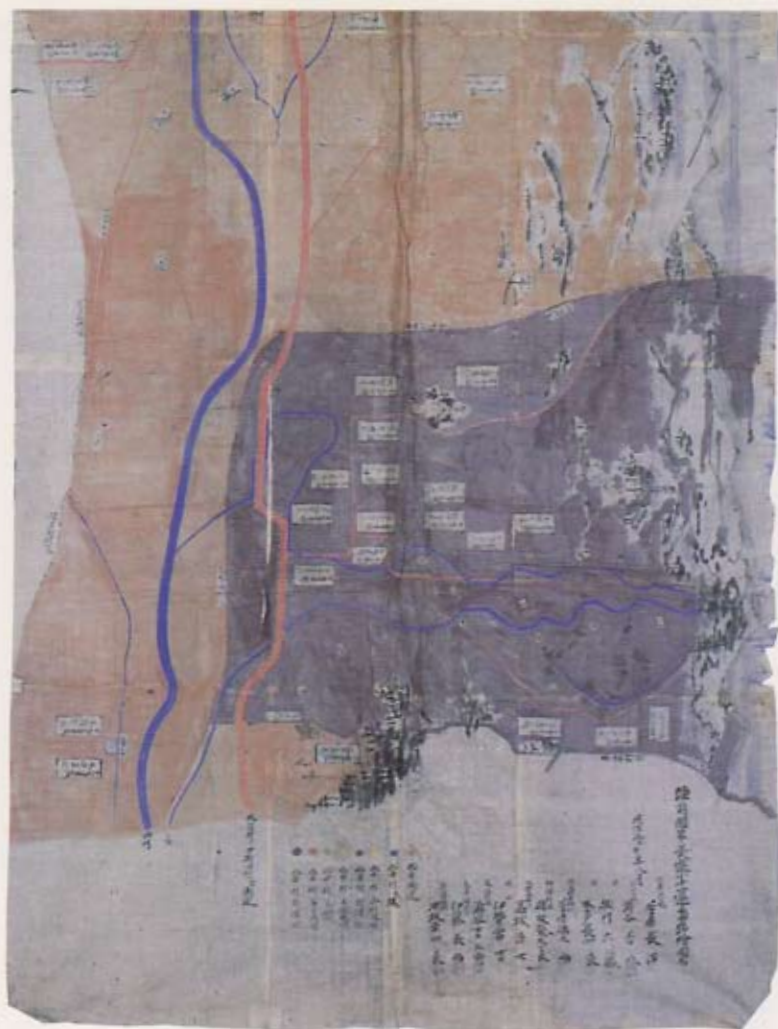
寛永検地は仙台藩で行った、ただ一回の総検地である。



資料：安永風土記

明治5年 ^{こせきほ}戸籍簿作製の基本絵図

渋谷文則氏 蔵



明治5年(1873)に、仙台県が宮城と改められ、新しい戸籍法が制定された。新しい戸籍簿を作製するための基本絵図である。

なお、同年には学校教育制度が公布され、翌年には、米泉小学校、谷地森小学校、宮崎小学校が開校している。

明治7年には、新しい戸籍簿にもとづいて、徴兵令が実施されている。



伊達家の武将として、政宗に仕え、宮崎城合戦に従軍し、天正19年6月（1591）38歳で戦死する。現在の墓碑は明和8年（1771）武芸家浜田市郎兵衛武次（伊豆の子孫）が再建したものである。

伊豆は各地を転戦し、伊達家の知将としてその名をとどろかしていた。

宮崎城合戦のとき着用していた、血染の鎧下着が現在も、仙台市博物館に保管されている。



資料：安永風土記・仙台人物史



町内では古い墓石で、文禄3年（1594）源真院円融居士と刻まれている。

源真は宮崎松野家の大本家にあたりといわれ、古くは地方の豪族であったと思われる。同家の宝刀といわれる、正広の銘がある大小二振が町内に所蔵されている。

ゆ どのさん ひ
湯殿山の碑



上 町

湯殿山の碑は各地に見られるが、町頭に建て、水の神、作の神として信仰した。

上町の湯殿山碑は嘉永5年(1852)北川内から大きな石を運び、4年がかりで建立したといわれている。高さ260cm、幅160cm、書は古内十代、実広氏である。

田 川

田川の碑は、もともと田川橋の上にあったが、洪水などにより現在地に移された。書は仙台瑞鳳寺の名僧、南山和尚で、文化14年(1817)である。石は小栗山産で、高さ245cm、幅160cmある。

この二つは、仙台藩の代表的なものといわれている。

ばとうかん ぜおん ばれきしん
馬頭観世音(馬櫃神)の碑

馬の飼育者が、馬頭観世音を信仰し、供養のために建てられたものである。

馬産地であった宮崎町に特に多く、ほとんどの部落に建てられている。





「染付宝珠龍文徳利」 宮崎町 蔵



「染付山水文輪花皿」
宮崎町 蔵



「染付薔薇文らっきょう形
徳利」 宮崎町 蔵



六歌仙 天保6年(1836) 熊野神社



馬疾走の図 慶応2年(1866) 馬頭観音堂



宮崎小唄

渡辺波光 作詞
 坂本登作 作曲
 藤間友寿 振付

朝の日に 大倉見れば
 かすみたなびく 程の良き
 木々の緑も 野に咲く花も

若衆みたまに 生き生きとく

(ソレ 宮崎ほんとうによいところ)

涼みがてらに 人待ち顔に
 誰かいるよな 大手橋
 昔なつかし さむらい街の

名残のこして いつまでもく

黄金波うつ 宮崎耕土

米の泉で はてもない
 そぞろ田川の 川べり行けば
 稲のにおいも しみじみとく

西も東も 萩花ざかり

さかる萩山 ただ十日

朝は朝星 夜はまた夜星

馬コ思えば 刈り足らぬく

雪は降る降る 田んぼも山も

あの家あかりも ちらほらと

年が明けたら また豊年と

今日も真の雪降るく



文化財愛護シンボルマーク

文化財という民族の遺産を過去、現在
未来にわたり永遠に伝承していくとい
う愛護精神を象徴したものである。

■編集

宮崎町文化財保護委員会

委員長 板垣剛夫

副委員長 猪股哲夫

委員 早坂 巖

庄司清一

編集主任 土田二郎

事務局 宮崎町公民館

館長 高橋栄輝

写真撮影 今藤写真館 今藤謙一

みやざきの文化財

平成5年3月20日 印刷

平成5年3月30日 発行

発行者 宮崎町教育委員会

宮城県加美郡宮崎町宮崎字屋敷1番52番

印刷 有中村印刷所

宮城県加美郡中新田町字南町45

